





審査結果報告書

2022年 / 月 / 日

主査	氏名	青山直善	
副査	氏名	高平尚伸	
副査	氏名	西山和利	
副査	氏名	岩淵和也	

1. 申請者氏名 : 小西美沙子

2. 論文テーマ : Comparing the clinical and laboratory features of remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema and seronegative rheumatoid arthritis.
(RS3PE と血清反応陰性関節リウマチの臨床的および検査的特徴の比較)

3. 論文審査結果 : 2022年1月7日(金) 17:00-、副査(岩淵、西山、高平) および主査 青山にて学位審査を実施した。主論文は IF も比較的高い J. Clin. Med. に採択されており、要旨として、RS3PE は、Remitting: 治療したら予後良好・寛解する、3つの S: seronegative: 血清反応陰性・リウマチ因子陰性、Symmetrical: 対称性、Synovitis: 滑膜炎、および Pitting Edema: 圧痕を形成する浮腫(手背・足背)、の頭文字をとり、これらの所見を特徴とする疾患である。一方、血清反応陰性関節リウマチ(SNRA)は、リウマチ因子や抗CCP抗体などの自己抗体が陰性の関節リウマチであり、RS3PE と鑑別が困難である。ただし、両者は治療法が異なるため、診断や治療の遅れが予後を左右する可能性がある。そのため、両者の臨床的な特徴の相違点、悪性腫瘍合併率および悪性腫瘍合併症例の臨床的特徴を明らかにすることを目的に研究された。結論として、RS3PE は、SNRA と比較して、小関節腫脹が少なく、CRP が高値で、悪性腫瘍の合併率が高かった。RS3PE では悪性腫瘍の検索が重要である、との見解であった。各副査、主査からの質問にも簡潔明瞭に解答され、臨床の現場に直ちに有用となる新知見を含んだ内容であった。よって主査および全ての副査とも、学位論文としてふさわしい内容であると判断した。